



こひつじレター No.36

Kohitsuji Letter

発行
印刷
連絡
発行日

TNG 幼児部門
〒162-0842
東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
日本福音ルーテル教会 宣教室
2022 年 4 月



4がつ

By しらかわ みちお (佐賀・小城・唐津)

あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。

(ルカ 24:1-12)

教会のお祭り、イースター/復活祭です。クリスマスギフトと同じようにイースターギフトはもらいましたか？ここにはいないと言われた場所はお墓でした。悲しむだけの場所ではありませんが、この日、お墓に来ていた人たちは泣いていました。すると天の神様の使いが伝えました。「イエス様は、ここにはおられません。復活なさったのです。」だから、もう泣かなくて良いと。イエス様がお話しになった言葉を「約束」といいます。この約束がイースターギフトです。泣きたくなくなってしまう時に使ってくださいね。



6がつ

By すぎもと よういち (熊本・引退)

神があなたになされたことをことごとく話して聞かせなさい。(ルカ 8:26-39)

皆さんは、だれともお話をすることのない日があったとしたら、どうでしょうか。もし、だれからも声をかけられない日があったとしたら、どうでしょうか。今、ここに、悪霊にとりつかれたと呼ばれる一人の男がいました。見捨てられ、生活のすみに追いやられて生きなければならなかったのです。だからこの人は、だれも住んでいない墓場に住んでいました。落ち着いた心も持てず、気持ちもふさぎ込んでいたと思います。イエスさまは、この人にとりつかれた悪霊に出ていくように命じたのです。自由にされたこの人が、最初に願ったことが、イエスさまの「お供をしたい」という言葉でした。



8がつ

By とみしま ひろし (宮崎・鹿児島)

「婦人よ、病気は治った」と言って、その上に手を置かれた。(ルカ 13:10-17)

安息日というのは、ユダヤ人にとって非常に重要な日で、この日は仕事をしてはいけません。その安息日に、イエスは会堂で教えておられたのです。そこに、18年間も病の霊に取りつかれている女性がいて、腰が曲がったまま伸ばすことができませんでした。イエスは、会堂で、この女性の存在に目を留めて呼び寄せ、「婦人よ、病気は治った」と言っていやしてくださったのです。すると、たちどころに腰がまっすぐになり、神を賛美したと言います。私たちは健康が回復すると、大きな喜びと感謝を感じます。この女性も、その喜びと感謝を味わって、神さまを賛美したのでしょう。律法は人を救えません。人を救うのは律法ではなく、愛なのです。



5がつ

By たけだ たいち (西宮・神戸・神戸東)

わたしがあなたがたを愛したように、

あなたがたも互いに愛し合いなさい。(ヨハネ 13:31-35)

私たちは、自分に沢山の欠けがあることを忘れて、つい人を愛したり、好きになるのに条件付きになってしまいます。かわいい、背が高い、勉強ができる、お金持ちなどなどその理由はさまざまでしょう。けれども神様は、そんな欠けの多い私、イエス様を十字架に架けてしまった私を価なしに愛してくださっています。あなたがどんなであって愛している、だから赦すとイエス様は語り掛けてくださっています。これが本当の愛だと教えてくれています。条件付きの愛ではなく、この神様の愛に生きることがイエス様の弟子としてのしるしとなるのです。



7がつ

By かわた まさる (ルーテル学院チャペル)

しかし、必要なことはただ一つだけである。(ルカ 10:38-42)

ある日突然、お家にイエス様が来たらみんなはどうしますか？イエス様に喜んでもらおうと、お部屋を片付けたり、ケーキを出したり、忙しくしますか？それともイエス様がいるのがうれしくて、ずっとイエス様のそばでお話を聞きますか？今日の聖書でイエス様は忙しく動き回るマルタさんより、静かにお話を聞くマリアさんの方が「良い方を選んだ」と言われました。イエス様と出会ったときに必要なことはただ一つなのです。それは私たちがあれこれとイエス様を喜ばせることよりも、イエス様がいっしょにいることを私たちが喜ぶことです。



9がつ

By みつのぶ ひろし (静岡・富士)

あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。(ルカ 16:1-13)

主人のお金を守ることを任せられていたのにむだ使いして、主人が損することをこの人はしていました。見つかった！首になるかもと感じた彼は、まだできる間に、主人に借金がある人の借金を減らしてあげます。悪いことをして来た彼は、さらにやっていて悪いことを重ねて、他者を助け、自分を生かす道をつけました。私たちは何にやっていて、生きる？ 富・自分の持ち物？ 「どんな時も、いつまでもいっしょだよ」と、私と一つになってくださっている神様？ 神様のもとのみ、みんなでつながり、助け合い、共にいきいきと生きることができるのではないのでしょうか。



『せかいで いちばんのばしょ』

のうさは自分の住む原っぱが「せかいでいちばんのばしょ」か確かめるために旅に出ます。

(BL 出版)

山に登り、海を眺め、星を見上げましたが、どこか寂しかったのです。

そして自分が住む原っぱに帰ってきました。

なぜって「せかいでいちばんのばしょ」は、友だちがいる場所だったからです。

ペトル・ホラチェック/さく
いわじょうよしひと/やく



かみさまのめぐみ、
いただきます！



監修：栄養士
永野智子

春に美味しい季節の魚介を使って～「鯛とアサリのアクアパッツァ」

<材料>

- ・鯛の切り身(骨、皮つき) 2～3枚 (200g 程度)
塩3つまみ、コショウを適量まぶしておく
- ・あさり or はまぐり 150～200g
- ・ミニトマト 8個 ヘタを取って縦半分に切る
- ・パセリ(あれば) 適量 みじん切り
- ・オリーブオイル 大さじ1+大さじ1
- ・水 500cc程度



<作り方>

- ①フライパンにオリーブオイル大さじ1を熱し、
鯛の皮を下にして置き、
皮がこんがりきつね色になるくらいまで中火で焼く。
皮が反る場合はフライ返しなどで押し付けながら
皮の全面をこんがり焼き付ける。
- ②鯛を裏返し、水を200cc注いで強火にし、
常に沸騰している状態で、お玉で煮汁をかけながら
4～5分火を通す。
煮汁が少なくなってきたら水を足す。



- ③ミニトマトと貝を入れ、貝の殻が開くまで沸騰させながら
お玉で魚に煮汁をかけ続ける。
煮汁が少なくなってきたら水を足す。

- ④貝がすべて開いたら、
オリーブオイル大さじ1をまわしかけ、
お玉で煮汁をまわしかけながら1～2分強火で煮る。
オイルと水分が乳化してきたら、味を見て
足りなければ塩を足し、パセリを加えてできあがり。

